

山口大学・共育の丘「石彫方位盤」の 社会的及び教育的効果

上原 一明

Social and Educational Effects of the Orientation Stone
on The Hill of Collaborative Learning at Yamaguchi University

UEHARA Kazuaki

(Received September 24, 2021)

はじめに

山口大学の「共育の丘」の頂上にある「石彫方位盤」が設置されたのは、2010年7月27日である。この作品は、山口大学が世界に目を向ける姿勢と、教職員や学生に世界を意識させ、また留学生が自国の場所を確認でき、故郷に思いをはせることができることを目的として制作された。本稿は「石彫方位盤」のコンセプトや制作過程を通して、これがもたらす社会的及び教育的効果についてや、今後の活用の可能性について述べる。

1-1 「共育の丘」石彫方位盤 制作コンセプト

以下は、2010年当時の制作コンセプトと、完成後の山口大学広報部からの質疑応答による内容である。

「共育の丘」に設置する石彫方位盤は、本学の国際化を進めていく方針のもと、故郷を遠く離れた留学生たちが母国の方角を確認できると同時に、本学の学生の国際「方向」感覚を養うことを目的としています。

1) 五大陸六大州を表現

「YAMAGUCHI JAPAN」を中心に五大陸六大州 (ASIA, EUPOE, AFRICA, NORTH AMERICA, SOUTH AMERICA, OCEANIA) の石を円形の中に配し、世界地図をイメージしました。360度の範囲を網羅するため「AFRICA」から「OCEANIA」にかけて中東から東南アジア地域の石を帯状に配置すると同時に、中心の円形を崩さないよう北太平洋付近にも石を配置しました。中央の石盤「YAMAGUCHI JAPAN」に立つと、正確に世界の各都市の位置と方向が分かります。

2) 留学生の出身都市名を刻字

留学生の各出身都市名を正確な方向に刻字します。現在在籍している留学生の出身都市名や過去に来日した留学生の出身都市名を刻字します。以後、初めて受け入れる都市の留学生が在籍した場合、随時その都市名を追加刻字します。

3) 迷路的彫刻

ベーリング海側と南太平洋側から中央に向かう段違いの通路により、石彫方位盤に迷路的要素が加わり、小さな子供達の遊び場としての魅力も演出されます。高さも60センチと低い円形彫刻なので、安定感があり丘になります。

4) 徳山石を使用

石彫方位盤の石材に山口県が誇る徳山石（黒髪石）を採用することにより、山口県で共に育ち、世界に羽ばたくことの意義を確認できます。徳山石は良質な石材であり、いち早く国会議事堂建設に採用された山口県周南市徳山沖の黒髪島から採石された石です。

*… デザイン化された世界地図なので、一部の都市は多少ずれる場合もあります。

1-2 山口大学広報部による質疑応答

以下、当時の広報部からの質疑応答を提示する。

(問1) 「石彫方位盤」は、留学生の出身地を示しているものですが、今回、制作された上でのテーマを教えてください。

(回答) 本作品は、本学の国際化を進めていく方針のもと、故郷を遠く離れた留学生たちが母国の方角を確認できると同時に、本学の学生の国際「方向」感覚を養うこ

とを目的としています。本作品は地球儀をイメージしており、山口を中心に五大陸六大州の石を円形状に配置しています。中央の石盤に立つと、山口から見た世界の各都市の方向が正確に分かるようになっていきます。また、これから新たに山口大学と学術協定を結ぶ大学の都市や、本学に留学してくる学生の出身都市を刻む予定です。この石彫方位盤は現在進行形の生きた彫刻作品です。

（問2）「石彫方位盤」が設置され、「共育の丘」が完成しましたが、地域の方・学生などに向けたメッセージをお願いします。

（回答）本作品は、山口県が誇る徳山石（黒髪石）を使用しています。山口県で共に育ち、世界に羽ばたくことの意義を確認することを願って制作しました。また、ベーリング海側と南太平洋側から中央に向かう曲面の通路により、石彫方位盤に迷路的要素が加わり、小さな子供達の遊び場としての魅力もあります。

この作品を通して、世界に包み込まれた自分を感じる自己存在の認識と、自らの将来への可能性と行動への意識を高めて頂きたいと思います。

石彫方位盤 平面図

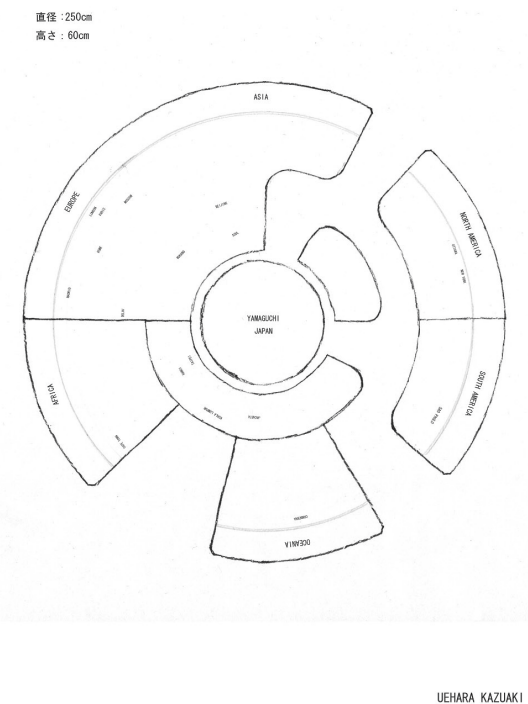


図1 石彫方位盤のイメージ平面図

2-1 石彫方位盤制作における参考作品

石彫方位盤制作において参考にした施設について、沖縄県糸満市摩文仁にある沖縄平和記念公園内の平和の礎を挙げる。

沖縄県糸満市にある沖縄平和記念公園内のメイン・モ

ニュメントである平和の礎は、第二次世界大戦の沖縄戦による全ての犠牲者の名前を刻んだ記念碑である。その放射状に置かれた中心点には、沖縄を中心とした東アジアの地図が描かれており、先端に炎が出る黒い三角錐が配置されている。視覚的にも分かりやすく、鑑賞者には自分自身が立っている、この地の歴史的事実を実感させてくれる。実際の地図に東西南北を合わせることで、正確な方位位置を確認することができる。本作の石彫方位盤は、これと同様の手法で考案した。



図2 沖縄県糸満市 平和の礎（筆者撮影）

3-1 石彫方位盤の地図的構成

石彫方位盤の構成は、地球儀をイメージしており、山口県を中心とした円形地図である。北方から西方にかけてはユーラシア大陸、南西方向にはアフリカ大陸、南西から南方には中東から東南アジア、南方にはオセアニア大陸、北東方向には北アメリカ大陸、南東方向には南アメリカ大陸を配置している。直径は3メートルで中心から約1.2メートルの円形から外側は、山口県から見ると地球の反対側となる。山口県を地球儀の北極点として考えた場合、赤道以南ということである。よって、この石彫方位盤中心の山口県から見た各都市名は、その方角と距離はほぼ正確な位置に刻まれている。

また、北側に「N」南側に「S」が刻印されており、それぞれ「北」と「南」を指す。北を向いて右側が「東」、左側が「西」を指す。石彫方位盤の中央に立ち、五大陸と各都市の文字盤を眺めながら丘の周辺を見渡すと、地球の丸さを体感することができる。

石彫方位盤 断面図

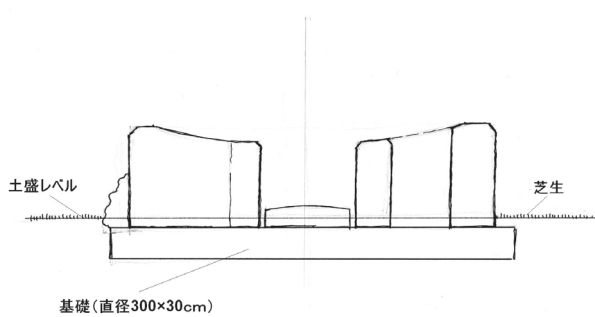


図3 石彫方位盤の断面図

3-2 石彫方位盤模型の制作

彫刻作品を制作する場合、実作品を作る前に模型を作成することが常である。これは図面上で作画する図案をより具体的に分かり易く視覚化するために、全体の造形イメージを立体的に表わすことが必要だからである。また、野外にある巨大な彫刻を室内展示で模型として楽しめるという利点もある。

今回の模型制作は、粘土原型を作成後石膏型を取り、FRP取りをした。FRP（繊維強化プラスチック Fiber Reinforced Plastics）は軽量で強度が高く、半永久的素材であり、模型展示作品に最適な素材である。



図4 石彫方位盤のFRP模型（未着色段階）

3-3 石彫方位盤の使用石材

石彫方位盤の石材には、山口県を代表する御影石である徳山石を採用した。別名黒髪石とも呼ばれる良質の御影石であり、周南市の徳山港から船で15分ほどの無人島である黒髪島から採石される。入島は関係者のみで、一般の人は立ち入ることはできない。ビルの外壁や墓石などに使用されており、研磨された表面の白・黒・グレーの粒が織りなす模様には品があり、高級感を漂わせる。

東京都にある国会議事堂は、日本全国から取り寄せた石材で建てられたことでも有名であるが、この徳山石は、

その第一号として納品されている。当時の政治的影響力があつたことが関係しているとも思われるが、なによりもその美しさと耐久性の強さが全国的に評価されていたということは想像に難しくない。



図5 採石された徳山石（黒髪島にて筆者撮影）

4-1 石彫方位盤の社会的効果

石彫方位盤は、山口大学正門左に位置する「共育の丘」の頂上に設置されており、気軽にハイキングを楽しめる里山のモニュメントとして親しまれている。隣には東屋が設けられており、休憩ができる。山桜や紅葉など季節ごとに木々の変化が楽しめる上、狸や雉、鶯などの動物にも遭遇できる。猪や蛇、スズメバチなどの危険動物もいるので注意が必要だが、自然が保たれている環境であることは間違いない。

この「共育の丘」ではこのような里山の自然環境を楽しめる場所であるばかりでなく、頂上にある石彫方位盤を用いて、地域の方々との交流の場を生む機会を作ってくれる。ここではイサム・ノグチの彫刻公園と社会的効果について取り上げ、石彫方位盤との関連性を述べる。

イサム・ノグチは世界的な彫刻家であり、フランス・パリのユネスコの庭園やアメリカ・マイアミ州ベイ・フロント・パーク、北海道モエレ沼公園などの広大な公園も設計しているが、彼の代表作の一つにイスラエルのエルサレムにあるピリー・ローズ彫刻庭園がある。その中で彼は、「その丘の彫刻を見るためには、一生懸命登って、そして彫刻と対面できる。そうして願ってもないかたちで鑑賞してもらえる。」「彫刻の大きさは、見る人間の大きさであるべきである。人が彫刻を見れば、彫刻も見返す。そこに何かの絆が生まれる。」と語っている。これは、公園という空間におかれた彫刻と鑑賞者との関係を、それぞれの存在価値がある社会的重要性として提示している。

人々が公園という公共的な空間へ足を運ぶのは、日常を離れ、自然豊かな場所でリフレッシュすることを主な

目的としている。丘を散歩していると、ふと巨大な彫刻が目前に現れる。人々と彫刻との対面である。それらの彫刻には固有の意味があり、そこで出会った人々はそれぞれの人生観や経験によって感じ方は異なる。そこで人々は自分の感想を語り合い、共感したり或いは異なる意見を述べたりする。意外にも作者の制作意図とは異なる感じ方をする人々もいるであろう。そこで彫刻と、これら人々が構成する社会が関係してくる。

イサム・ノグチは、こうした人々と彫刻との出会いを、その社会とどう繋ぎ、関係性を構築するのかということに常に熟考し、それを造形に生かしている。このような観点からこの石彫方位盤は、山口大学の存在価値を世界的視野で捉えた彫刻であるといえる。



図6 作品のタイトル表示石（鳳凰山花崗岩）

4-2 石彫方位盤の教育的効果

石彫方位盤は、学校教育の各教科の中でも活用できる。使用されている材料である御影石（花崗岩）に関して、理科教育における岩石種類の紹介や分類に活用できる。徳山石の利用状況に関しては、社会科教育における地理歴史で活用できる。前出の国会議事堂における利用状況は、歴史的な意味合いも相まってとても興味深い。また方位盤として、山口県から見た世界地図という地理的観点からも学習できる。

イサム・ノグチの作品に「スライド・マントラ」という作品がある。黒御影石でできた巨大な滑り台である。彫刻に「遊具」という要素を取り入れた作品である。造形的にもユニークであり、滑り台としての遊具性も併せ持つ彫刻作品である。この石彫方位盤も、前出のとおり迷路としての要素があり、遊具性も兼ね備えている。高さは1メートルほどなので、2、3歳の幼児達であれば、楽しく迷路として楽しめる。幼児教育の中で、幼児達の遊びの場として利用できる。数名の幼児や大人で楽しめるゲームを考案することも可能である。その1例として、ジャンケン・ゲームを紹介する。まず第一者が中央ス

テージに立ち、開口の前で第二者とジャンケンする。第一者が勝てば、その次の第三者と勝負するが、負ければ第二者が中央ステージに立ち第三者と勝負する。この流れを基本にルールを構築し、参加者から新たなルール案を提案させ、参加者同士のコミュニケーションを活発化させ、より楽しくゲームを完成させていくという交流活動である。



図7 石彫方位盤内部

最後に

以上のようにこの石彫方位盤は、様々な要素を取り入れた彫刻作品であることが分かる。

最後に石彫方位盤を制作するにあたって特筆すべき事を述べる。上面の北北西側に丸い石がある。これは上面を彫っていく過程で、原石からの声が聞こえてきた結果なのである。この丸い石は後から付け加えたのではなく、原石から彫り残したものであり、碁盤の碁石のような「世界に打つ一手」として残してくれ、という原石から聞こえてきた石の声を反映したものである。

彫刻作品とは、素材の芸術であり、材料である石材の良さを十二分に生かすことで、作品のクオリティを高めることができる。この石彫方位盤の制作も、緻密なコンセプトと設計、そしてしっかり原石の声を聞くことにより、作品として造形的に最も美しく、深い意味をもたせることができた。これからも共育の丘から山口大学を見守る彫刻作品として、いつまでも愛されることを望む。

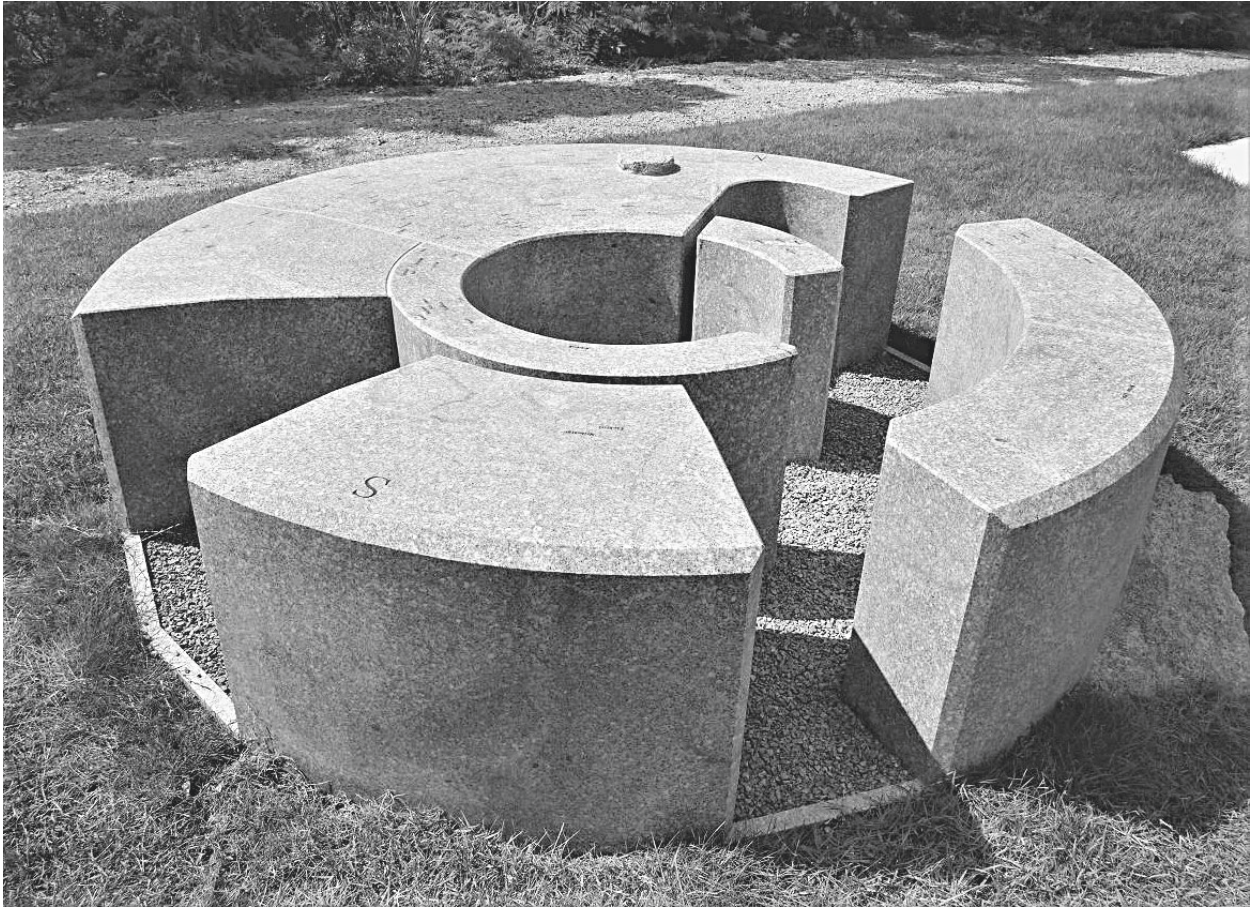


図8 共育の丘 「石彫方位盤 世界へそして未来へ」 素材：徳山石（黒髪石）

参考資料：

DVD「イサム・ノグチ 地球を彫刻した男」 2005年
札幌テレビ放送株式会社

「イサム・ノグチ庭園美術館」2009年 財団法人イサム・ノグチ日本財団